

## Applied Economics Intensive 2015 (Edinburgh)



このエディンバラサマースクールは英語が苦手な人ほど参加する意義があると思います。実際、僕は英語が大の苦手で、「大学に入ったら英語は勉強したくないな」とまで思っていました。しかし、欲なこと、英語を使いこなせるようになりたいという思いがあったので、一年生の間に苦手な英語漬けの生活に飛び込めば英語に対する意識が変わるかな、という気持ちで参加を決めました。

英語に苦手意識を抱いていたため、プログラム開始前日まで委縮していた僕ですが、大学の授業は講義式というよりは学生同士がある課題に対してディスカッションをした後にクラス全体にフィードバックしたり、プレゼンテーションをしたり、宿題として授業内容を要約したりと、学生が能動的に活動できる内容であり、また、ハイランドツアーなど野外活動も充実してエディンバラを満喫できるものでした。ホームステイ先では、まるで本当の家族のように接していただき、20度前後の心地よい気候と相まって、不自由のない生活を送ることが出来ました。

このプログラムは現地集合現地解散かつホームステイなので、空港、ホテル、買い物、観光、宿泊、授業と何から何まで英語が必要とされました。往々として英語が理解できずに慌てふためいたり、ホームステイファミリーとの間に誤解が生じたこともありました。しかし、こういった経験から、英語を教科や社会人必須能力などといった堅苦しいものではなく、自分の活動範囲を広げてくれるコミュニケーションツールだと初めて認識することが出来、英語の対する考え方や取り組み方を一新する良い機会と

なりました。この経験が今後の大学生活に大きな影響を与えるであろうことは言うまでもありません。参加して本当によかったと思っています。(R.M.)

-----



貴重な経験となったサマースクールについて大学での授業、外食、観光の3つに分けて書いていく。

まず大学での授業についてだが、授業は大きく分けて3つのセクションに分かれていた。全ての授業においてグループディスカッションの時間が重視されており日本の講義中心の授業との違いを感じた。先生から発言を促される場面も多くあるので失敗を恐れず積極的にディスカッションや発言に参加するのが良いと思う。またリーディングやエッセイの課題がほぼ毎日宿題として出された。大変に感じる時もあるかもしれないが授業の質やライティング能力の向上のためにはとてもいい機会なのでしっかり取り組むとよいと思う。

外食については全体的に価格が高い。昼食なら 5 ポンド、夕食なら 10 から 15 ポンドが目安になると思う。ちなみにレストランはクレジットカードが使えるところと使えないところがあるので注意が必要である。夕食に関してはホストファミリーやメンターにお勧めを聞くのが良いと思う。昼食は基本的に学食や近くの店で食べることになるが、私のお勧めは Paterson's Land の近くにあるパニーニ屋さんである。学食が日本と異なりそれほど安くはないため 3.25 ポンドで食べられるパニーニはおすすめである。

最後に観光についてはとにかくフットワークを軽くして回ることが大切だと思う。エジンバラはそれほど大きい町ではなくバスで基本的にどこへでも行けるので放課後でも十分に観光ができる。さらに 8 月中はフリンジフェスティバル期間中となるので町の中心部では路上パフォーマンスを見ることができる。ホストファミリーやメンターにお勧めの場所を聞くのも良いと思う。また大学の提供してくれるソーシャルプログラムは大学が厳選したということもありどれも魅力的なのですべて参加するのが良いと思う。

ここでは 3 点に絞って書いたが他のことも含めてとても良いプログラムなので海外に興味のある人はぜひ参加するべきだと思う。(J.M.)

-----

私はこの夏休みにおよそ一か月間のエジンバラ大学サマープログラムに参加しました。四月に参加することが決まってから、参加までの準備期間、そしてプログラム参加中はもちろん、様々なことを体験し、私にとってどれも良い学びとなったと思います。特にこのプログラムは経済学部主催とのことだったので、人間文化課程所属の私についてはいけるかどうか不安でしたが、終わってみればこのプログラムは良かったです。

プログラムの内容としては、参加者がホームステイしながらエジンバラ大に通って、英語で授業を受けるというものです。クラス分けが行われたのですが、私は下のクラスでした。授業の内容は、分かる時と分からない時があって、そして自分の性格もあってか、英語を話すことをためらってしまうことも多くありました。しかし、先生やメンター、プログラムに参加している友人が励ましてくれたりして、頑張ろうと思えました。ホームステイでは、学校の授業とはまた違う家庭での英語が必要でしたが、ホストファミリーがとても優しい方々で、私が話すことを一生懸命聞こうとしてくれました。最初はなかなか話せなかったけれど、徐々に打ち解けて、一緒にテレビを見たり、今日の出来事を話したりと楽しい時間を過ごせました。

休日には、横国の生徒と一緒に様々な観光名所に出かけたり、週末を満喫しました。特にこの時期のエジンバラは、世界的に有名なフェスティバルの開催地で街を歩くだけでも楽しかったです。

この一か月に及ぶ、サマープログラムは、私にとって「英語を話せるようになりたい。」と目標を持たせてくれるものとなったし、何より美しい古都エジンバラで学べて過ごせたことは、とても価値のある時間でした。(S.I.)

-----



今回のサマースクールが、私にとって初めての海外渡航経験でした。不安な中飛行機に乗り、やっとの思いで 経由地の中国へ。そしたらまさかシステムトラブルとやらで飛行機が動かなかったのです。現地ではもう日本語は通じず、何とか拙い英語力で聞いて話して…。 それまで受験以外で英語を使う機会はなかったのですが、何とか到着するためのがむしやりに英語を使ったのが、英語を話し始めるきっかけになったのかなと今 となっては振り返ることができ

ます。そんなまさかのトラブルの後、サマースクールが始まりました。授業は英語のみという状況の中で、はじめの一週間は精神的に疲れました。というのも、常に先生の話に集中していなければ理解しそこなってしまうからです。そんな状況にも少し慣れた二週目は、かなり充実していたと思います。到着前のきっかけが好転し、単語だけ会話や間違っただ文法ながらも、自分で英語をしゃべることにも抵抗感がなくなり、現地で仲良くなった人たちと話すことが楽しくなっていました。三週目には聞き直し回数が少し減ったと感じています。最終週はプレゼンの準備で目一杯で、成長を感じられる余裕はなかったのですが、このプログラムを通じて、スピーキングとリスニングの能力は飛躍的に向上させられたのかなと思います。この期間で得られたのは英語力だけではありませんでした。外国人の友達ができただのです。背景の違う人たちとの交流は、自分の価値観を豊かにしてくれました。少しは外国の文化に触れられたと感じています。一年生の早いうちに貴重な経験ができたことを大切にしたいので、今後の学校生活だけでなく、社会生活にもこの経験を生かしていきたいです。(Y.F.)

-----



勉強面と生活面について、2つの側面から述べていきます。

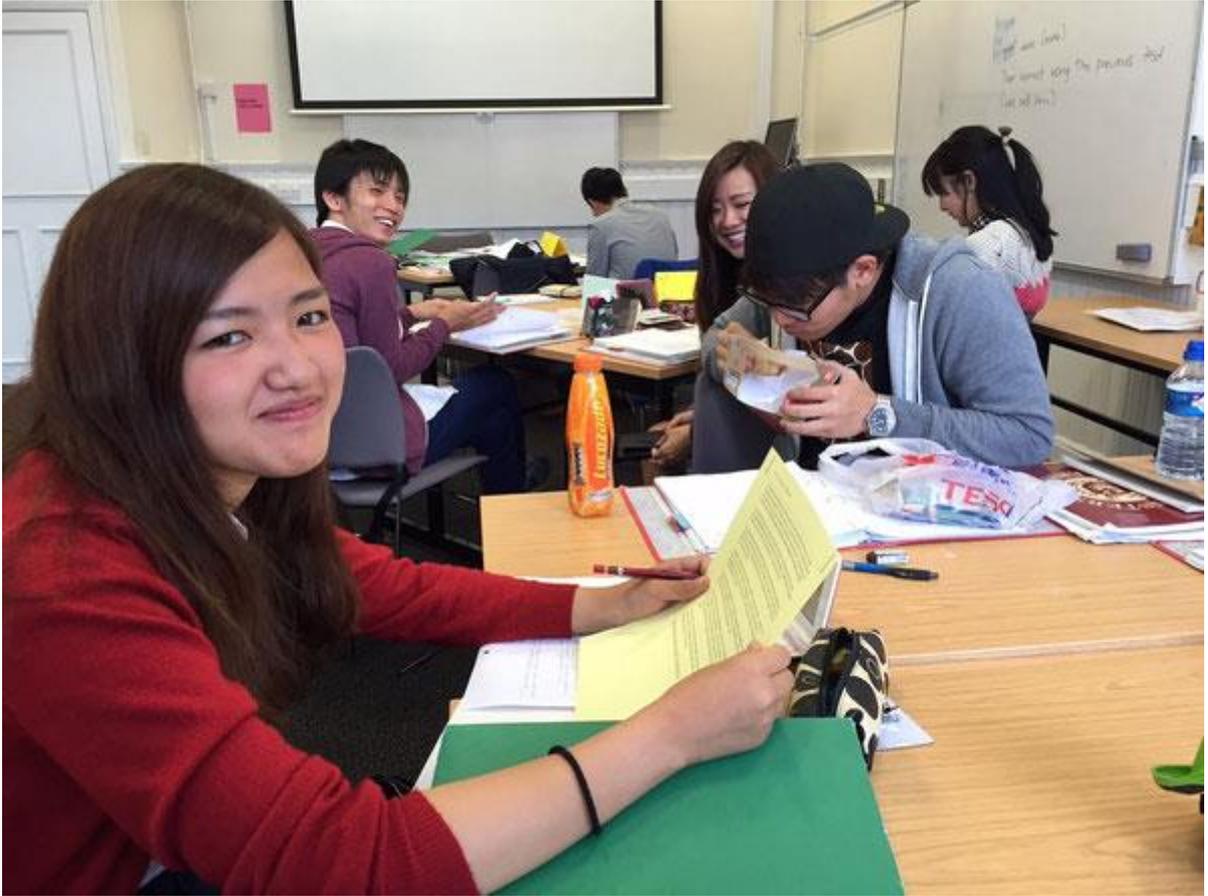
最初に、勉強面についてです。予定通りに、週3日は3コマ、2日は2コマ、という形で進められました。1コマ目は経済についての英文を読み、理解を深める内容でした。経済について、といっても専門的すぎる、ということはなく、他学部でも学びやすい内容でした。週に1度200~300語程度のエッセイの課題が出されます。2コマ目は一般的な知識を深める内容でした。あるときにはスコットランドの文化について3人ほどのグループでポスターを作ってプレゼンをおこないました。また、dragons' denというテレビ番組を真似た英語を使っの交渉ゲームなど、書ききれないのですが、バラエティに富んだ内容でした。週に3度ある3コマ目では、最後に行うプレゼンについての準備でした。最初に2人でペアを作り、自分たちでトピックを考えてまとめ、最終的に

12 分間プレゼンを行う、というものです。まとめる段階では、データを集めるために外に出て街頭インタビューを行いました。最低 15 人のデータを集めなければならず、ペアの人との協力が大切でした。大変でしたが、とてもやりごたえのあるものだったと感じています。

次に生活面についてです。僕のホスト先は学校からバスで 40 分ほどのところでした。宿題が多く、話す機会があまり取れなかったのも、そこは残念でした。また、ファミリーにはできるだけ自分の希望をはっきり伝えることが大事です。要望があるのに黙っている方がかえって良くないです。休日などには、Arthur's Seat や Palace of Holyroodhouse、Edinburgh Castle などの観光名所に行きました。行きたい場所は前もって調べておくことをおすすめします。また、Military Tattoo は予約が必要ですが、絶対に見るべきショーです。電車を使って他の街に行くのも良いです。街中にトイレは少なく、レストランやパブに入らないといけないので注意が必要です。ちなみに、デパートのトイレは 20p かかります。博物館や美術館は無料なので利用しやすいです。日本とおなじ感覚で夕食を食べるなら 10pound は見積もったほうが良いです。僕は現金を 7 万円ほど持って行き、なくなったらカードを使っていました。バスは定期券のようなものを作るまで現金で、レストランによっては現金のみのところもあるので、注意が必要です。また、割り勘のできるレストランとそうでないところがあります。余談ですが Can we split the bill? よりも Can we pay separately? の方がうまく伝わったような印象がありました。食生活については、朝はホームステイで、昼は大学の近くにあるパニーニをテイクアウトできるお店をよく利用しました。3.25 ポンドでお手軽なのでおすすめです。夕食がないときは外食でした。ローズストリートのレストラン等に行きました。また、スーパーで買って食べたりもしました。お金に関してはなんにせよあまりケチらないほうが良いと思います。

結論として、外国で生活するというのは貴重な機会ですので、多くのものが得られると思います。チャレンジを恐れずにいる気持ちが一番大切だと、振り返って感じます。(Y.S.)

-----



私は、このエジンバラサマースクールに参加して、自分自身に対して視野が広がっただけでなく、描く将来に大きく前進できたと思います。最初は英語を学びたい、ヨーロッパの芸術に触れたいという二つの目的で参加したこのサマースクールですが、実際行ってみると日本では決してできない貴重な経験をたくさんすることができました。異国の環境で一か月暮らすというだけでも、感じるものがたくさんあり、自分が成長できる要素がそこら中にあふれていました。そしてたくさんの新しい出会いがありました。エジンバラ大学の先生方はもちろん、メンターやホームステイ先の家族、そして一緒に一か月授業を受けた横国の仲間との出会いも、とても素敵で、彼らと話をするたびに新しい考え方や刺激を受けることができました。また、8月がフェスティバル期間だったということもあり、現地の人以外にもヨーロッパ中の観光客と話す機会がたくさんありました。私もたくさんのショーやコンサートを見に行き、さらに自分も楽器をやっていたので、共演させていただくこともできました。英語を学ぶだけでなく、文化や芸術などにも触れ、人とかがわることができてとても幸せで充実した一か月を過ごすことができました。それと同時に、一か月でこれだけ学ぶことができたのだからもっと世界に羽ばたきたいという気持ちが強くなり、現在は留学に向けて努力しています。

社会人になってからもう一度、お世話になった人たちに成長した姿で会いに行きたい  
と思います。毎日が濃くて素敵な30日でした！！(C.K.)

-----



私は、入学して早々に募集がかけられたこのサマースクールに迷わず応募しました。というのも、私が大学生活でやりたいことの1番に留学をしたいという希望があり、それは早ければ早いほど良いと思っていたからです。イギリスでなくても、カナダでもアメリカでも留学できれば良いという気持ちだったので、最初はエジンバラを全く知らない状態で、それほど観光場所なども期待しておりませんでした。しかし実際は、町全体が世界遺産に登録されているという古き良き街並み、世界最大のアートフェスティバル、世界ランキング16位というエジンバラ大学のレベルの高さ、色々なことに感動し、驚き、狭すぎた自分の世界観を大きく変革させました。

中でも私が最も留学して良かったと感じたのは、素晴らしいホストファミリーと出会えたことです。私の家のホストファミリーは他と比べて少し異質で、家族全員が日本への来訪経験がありました。中でもホストマザーは8年間日本に住み、英語と日本語

の通訳人をするほど日本語が堪能な方でした。他にも同じ年のホストブラザーは、イギリスの柔道学生チャンピオンであり、2020年の東京オリンピックに代表として出場するかもしれないほど実力がありません。そんな自慢のホストファミリーでしたが、もちろん会話は全て英語でおこない、しかも日本の文化などに理解が深いので会話のネタには困るはずもありません。彼らの温かい歓迎があったからこそ私は有意義なサマースクールを遅れたと思っています。2020年に東京で彼らと再会することを心の底から望んでいます。

総じて、このサマースクールは間違いなく行ってよかったと思っています。これを読んで留学をするかどうか迷っている人は、このサマースクールなら最後には必ず良かったと思えるものになることは保障します。4週間という短い期間ですが、私の人生観を変えるには十分すぎる長さでした。(S.I.)

-----

今回のエディンバラサマースクールを振り返ってみると一言で言えば非常に有意義なものであったと考えている。その理由を三つに分けて書いていきたい。

一つ目は、英語に今までにないくらい深く関わったということである。私は、海外経験をしたことはあるもののこのような学校でしっかりとしたカリキュラムが組み立てられ、帰宅した後もホームステイで英語漬けの生活が送れるという経験は、今までになかった。自分の英語というものの足りない部分や、今後伸ばしていかなければいけない部分などを身にしみて感じることができた。また、異国の人々と英語というツールを使ってコミュニケーションが取れたということはとても楽しい経験となった。

二つ目は、エディンバラという街を楽しめたということである。エディンバラは街全体が世界遺産になっているのにふさわしいほどの美しさを兼ね備えているし、多くの観光地があり、一ヶ月いても全く飽きることがなかった。また、食べ物がまずいと言われているが、実際はそんなことはなくフルーツなどは日本よりも美味しく食べることができた。特に印象に残っているのは、アーサーズシートとミリタリータワーであり、ぜひまたエディンバラに行く機会があったら見に行きたいと思う。

三つ目は、自分と向き合うことができたという点である。異国の地、文化に身を置くことで、私は非日常というものを感ずることができた。その中で、改めて自分が一体何者でこれからどのようにして未来に向かっていけばいいのかということをも再考する時間がとても多く非常に有意義だったと思う。

このように私はエディンバラでかけがえのない時間を過ごすことができよ  
かったと考えている。(S.S.)

-----

海外での留学経験のなかった私にとって、学部で行われている半年、1年にわたる交換留学はいろいろな面でハードルが高く、なかなか応募する一歩を踏み出せませんでした。そんな時にエディンバラでのサマースクールの案内をみて、説明会に参加したのが始まりでした。初めは、ホームステイや異国の地での生活にかなり不安を抱えていましたが、いざ終えてみるとなんとかなったなというのが正直な感想です。

エディンバラ留学の期間中は、ちょうど Fringe festival が行われていて、まさに毎日がお祭りといえる状態でした。現地に行って何よりも驚いたのはエディンバラ大学の立地の良さです。市の中心街から徒歩 10 分ほどの場所にあり、大学での講義を終えたあと散策するだけでも観光になりました。私のホストファミリーの家はバスでおよそ 40 分かかり、本数もそれほど多くはなかったため、他の友達よりはややアクセスは悪かったと思いますが、ナイトバスも走っており不自由と感じることはありませんでした。

エディンバラ大学では、15 人 2 クラスで展開され 1 日 3 コマの授業が行われました。日本の英語教育とは異なり全編英語、アウトプット中心の内容は新鮮かつ刺激的でなにより楽しい時間でした。そして授業を担当した Jane と Amy は親身になってサポートしてくれました。また食事面でも、イギリスはあまりご飯が美味しくないという話を聞いていたのですが、ホストの食事をはじめ、非常に美味しくいただきました。ただ、外食は結構値段が高く、特に日本食はその傾向がありました。安くて美味しい店を探すのも楽しみの一つにするといいと思います。

1ヶ月の留学生活はあっという間でしたが、本当に中身の濃い充実した日々でした。エディンバラの素晴らしい景観と人々に囲まれて過ごせたのは一生忘れられないと思います。英語をもっと好きになったプログラムだったと思います。(T.A.)

今回のエジンバラサマースクールは全体的に素晴らしく満足いくものでした。その理由は大きく分けて、二点あります。第一にスコットランド、そしてイギリスの風土や歴史に関して、身をもって体験できることです。ホームステイをすることによって、イギリスの家庭の味を知ることが出来ます。最初こそは、その味の薄さや、簡易な食事に驚かされるのですが、慣れてくるとそれが、イギリスでの生活に即した合理的なもの

だと理解できます。今ではその味が、若干恋しくもあります。また、歴史に関しては有名な観光スポットに行くことによって、観光をしつつ学ぶことができます。エジンバラ城が、その一つです。中は博物館になっており、たくさんのことを学べます。また、エジンバラ城からの景色は圧巻のものであり、是非行くことをお勧めしたいです。もちろん歴史については、授業で学ぶこともあります。第二にその歴史なども学ぶことができる、サマースクールの授業の質の高さです。この授業では初めに、大学で使われる英語について学び、英語の発音、英語を使った経済学、英語でのプレゼンというように、一ヶ月で多くのことを学べます。また、これらを学び、ホームステイ先で英語を毎日使うことによって、英語をしゃべるということに抵抗感が無くなり、自然と話すようになります。しかしながら一点だけ、全体を通して注意して頂きたいことがあります。それは物価の高さです。私がエジンバラにいたころ、1£＝約200円でした。つまり、日本の物価の約二倍だったのです。例えば昼ごはんを食べるのに5£＝約1000円以内ならば安いといった感覚になります。来年度エジンバラに行くとき、1£いくらかはわかりませんが、最近で一番安くなったときで1£＝150円だったので、しっかりとお金の準備をした上でこのサマースクールに参加することをお勧めします。ただお金がかかったとしても行く価値のあるものだと私は思うので強くお勧めします。(S.N.)

-----

2015年8月8日から9月6日まで、イギリス、スコットランドの首都であるエジンバラにて、ホームステイプログラムを体験した。平日は、エジンバラ大学の語学学校に通い、朝9時から午後までスコットランドの文化や経済について英語で学び、放課後は学校主催のイベントに参加したり、買い物をしたり、8月の間行われていたフェスティバルを楽しんだ。学校主催のイベントには、シティツアーの他、パブの楽しみ方を教えてもらったり、スコットランドの伝統のダンスを踊った。週末を利用し、ハイランド地方へ1泊2日のバスツアーにも出かけた。個人的なおすすめは、ニュータウンツアーと、パブである。

学校は、初めは比較的内容も容易だったが、徐々に難しくなっていた。プレゼンやディスカッションの機会が多く、学んだ経済の内容について、英語力を駆使して他人に説明する力を養うことができたと感じている。宿題も多く、日本の大学の授業とは違った能動的な学習が中心であった。経済についてのエッセイをいくつか書くのだが、細かく添削もしてもらい、ライティング力の向上にとっても役に立った。

エジンバラの観光は、ブリタニア号や、エジンバラ城が印象的であった。スコットランドの歴史や文化を知ることができ、存分に楽しんだ。フェスティバルの期間は、劇を観た

り、ミリタリーツアーを楽しめた。ツアーは、フェスティバルの目玉だけあって、圧巻であった。

エジンバラの街は、古都としての街並みが美しい、魅力的な街だ。予想していたよりもずっと安全で、夜でも友人とパブやイベントに出かけることができる。このプログラムを通じて、私は、コミュニケーション手段としての英語の重要性、現地でその歴史や文化を学ぶ有意義を実感した。また、海外に対する「壁」が低くなった。一生の思い出となるかけがえのない経験であった。(H.F.)

-----



私はエジンバラサマースクールを通して、それまで自身が無意識のうちに持っていた海外や英語、また日本に対する固定観念をいくつか崩すことができたと感じています。

まず、イギリスで、日本にあるものとは異なるものを目にしたことで、日本にいるときには当たり前だと思っていたことについて改めて見直す機会を得ました。例えば、私

はイギリスで交通機関を利用する際に定期を作りましたが、そのカード一枚を使えばバス、トラムなど異なる交通機関を利用することが出来ました。また、その中では Free Wi-fi が充実しており便利でした。日本の交通機関は海外で見ると決して便利とは言えないのだと知るきっかけになりました。

そして英語に対しては、英語が生活の中にあるという環境で過ごしたことで英語を身につけていくことに以前より抵抗を覚えなくなりました。以前の私は、スピーキングのレッスンなどで、無理やり話題を探しているうちに面接の練習をしているような気がしてしまい、コミュニケーションツールとして英語を見るのがなかなか出来ませんでした。しかしイギリスで、ホストファミリーや大学の中で出会った人と会話を楽しむ機会を持ってからは英語が言語であることを実感出来ました。それまでは意識していないと英語が言葉として頭に入ってきませんでした。簡単な言葉なら時折自然と耳に入るようになりました。また、英語でプレゼンをする機会を得ましたが、最初は自分が話している英語がどのように相手に伝わるか考える余裕もなく覚えたことを言っていました。しかし、英語に対する意識が変わる中で、相手に伝えることを意識して話すようになりました。文章を読むときにも、以前は内容を解読するかのような感じを覚えていましたが、内容に関心を持ちつつ読むようになりました。

英語を身近に感じる機会を得て、視野が広がったと感じています。(J.M.)

-----

このサマースクールへの参加を決めたのは、大学に入学して2週間も経たない頃でした。少し不安はあったものの、元々留学に興味があったことに加え、入学当初の意識の高さと勢いで応募に至りました。

実際、エディンバラ大学での授業はとても魅力的なものでした。先生の話す英語はとても丁寧で分かりやすく、内容も英語の発音や UK の経済について、プレゼンテーションなど多様な授業があり、どれも興味深いものばかりでした。その中でも特に私が一番良かったと感じたのは、授業のスタイルです。1つの大きなテーブルを囲むように3、4人ずつ座って、お互いに意見を言い合いながら進める授業は、日本の大学でよくある講義型の授業とは違って楽しく取り組むことができました。

私のホストファミリーは、若い夫婦に6歳と10歳の娘という4人家族でした。彼らはとても優しく、私の英語力が乏しいせいで上手く話が伝わらない時も、分かるまで何度も話してくださりました。彼らには本当に感謝しています。この家族は留学生の受け入れにとっても積極的なようで、私が滞在している間、常に2、3人は留学生を受け入れて

いました。そのおかげで国籍も年齢も留学に来た理由も全く違う人たちと話をする機会があり、とてもいい体験になりました。

そして、エディンバラという街自体も本当に素晴らしい場所でした。趣のある建物に、石畳の道、そしてフェスティバルによる活気も加わり、毎日街を歩いているだけでとても楽しかったです。平日の放課後や休日には毎日のように観光名所を回り、1か月間でエディンバラを思う存分堪能しました。

私がエディンバラに行って最も変わったと感じるのは、外国人と話すことに対する抵抗感がなくなったことです。今ではバイト中に外国人と話するときも、理解しよう、伝えようとすればコミュニケーションは取れるのだと考え、積極的に話しかけられるようになりました。(N.F.)

-----

今回のエジンバラ大学への短期留学で、英語の勉強はもちろん、エジンバラという素晴らしく綺麗で文化的な街を堪能することができました。

大学での授業は日本での授業のように単に先生の話聞くものではなく、グループの皆で話し合ったり、自分でアンケートを取ってプレゼンをしたり、大変興味をわく楽しい授業でした。教室内は日本語禁止で英語しか話せないのも、とにかく英語を使う！使う！これは日本ではできない効果的な勉強だと思いました。

放課後や休みの日は、観光名所を巡ったり、フェスティバルのバレエやオペラを見に行きました。エジンバラでは8月に様々なフェスティバルが行われていて、町中がお祭り騒ぎです。街のあちこちでショーが公演され、楽器の音が響き渡り、ダンスや音楽が好きな私にとっては最高の環境でした。

エジンバラに留学している間、私は年配の夫婦の家にホームステイしていました。彼らはおしゃべり好き世話好きで、本当に良いホストファミリーでした。夜はホストマザーの美味しいご飯を食べて、その後はリビングで一緒にテレビを見ながらおしゃべりしたり、飼っている犬の散歩に行ったりフリスビーで遊んだりと楽しくてリラックスできる時間を過ごしました。留学初めのころは恥ずかしさと緊張で Yes, No, OK と挨拶くらいしかできませんでしたが、だんだんと内容のある会話ができるようになって、自分の家族と話すような世間話やジョーク、将来の話もできるようになりました。だから、ホストファミリーは私の好きなことや将来の夢も知っているし、本当の親のように応援してくれています。今でもメールや写真を送りあっていて、私にとってすごく大切な存在で

す。勉強面、生活面ともに想像以上に充実した1か月を過ごせて、このプログラムに参加して本当に良かったと思っています。(A.H.)

-----

私は今回エジンバラ大学でのサマースクールに参加したことで、様々な面において成長することができました。

まずこのプログラムは現地集合現地解散だったため、飛行機や開始前後のホテルの手配を各自で行わなければならない、自分で海外旅行をした経験がなかった私にとって、出発前から勉強の連続でした。さらにエジンバラ到着までの間にも、飛行機が大幅に遅延しとても不安でしたが、今振り返ると良い経験になったと思います。

無事にエジンバラに到着し、集合場所でホストマザーと初めて会った時はとても緊張しました。私は自分の英語に自信がなかったうえ人見知りだったので不安でしたが、ホストマザーがたくさん話しかけてくれたため少し緊張が解けました。

ステイ先にはドイツ人の社会人の男性もホームステイしていました。彼はとても英語が上手で、最初はホストマザーやホストファザーとの会話に入っていくづらかったのですが、みんなとても優しく、私に話題を振ってくれたりしてくれたため、だんだん打ち解けていくことができました。

翌日からは大学での授業が始まり、経済や文化を学んだり、会議等のロールプレイングをしたほか、街に出てインタビューをしてその結果をもとにプレゼンテーションを行いました。私自身は周りのレベルの高さに圧倒されて積極的に発言できなかった部分があったため、もっと頑張れたかもしれないと思いますが、どれもとても勉強になりました。

また、エジンバラという街については、世界遺産に登録されている街並み自体も素晴らしかったうえ、国際的なフェスティバルが開催されていてミュージカルやオペラなどを楽しむこともできて大満足でした。

行く前までは海外生活に不安がありましたが、実際に滞在してみると一か月ではとても短いと感じ、交換留学へ挑戦したいという気持ちも湧いてきました。このサマースクールは、自分を変える足掛かりとなり、参加して本当によかったです。(S.T.)

-----

「エディンバラ。」この都市の名前を聞いて、正直 1 年前の私はどこの地域のどの国にある都市か思いつくことができませんでした。大学に入って約 1 年を迎えようとしていた、今年の 3 月頃、ふと友達から教えてもらったプロジェクト「エディンバラサマースクール」に参加した後、エディンバラは私にとってかけがえのない都市となりました。

私の中で留学とは、大学生活の中での一つの目標でした。しかしながら、明確なビジョンもなくどこにどれくらい行きたいといった具体的なプランもありませんでした。そんな中でのエディンバラサマースクールは、プランの決まってない私にとってぴったりのものでした。

サマースクールに参加すると決まってからは、時間があっという間でした。パスポートの準備、航空券の手配、などやることは多岐にわたっており非常に大変でしたが、今となってはこの経験が非常に良かったと思います。

いざ、サマースクールが始まると、海外へ行くのが初めてだったこともあり、見渡すものすべてが新鮮に感じました。しかし、新鮮であるとともに困惑したことも多々ありました。特に、ロンドンについた初日に地下鉄のストライキがあったことは、日本との文化の違いもあり戸惑いました。大学の授業は経済の授業から、スコットランドの文化に関する授業まで様々でした。この授業もまた、英語の上達以外の点で刺激的で日々新しい発見ができるものであったため、非常に充実していました。大学の中では先生との交流はもちろんのこと、メンターと呼ばれる私たちの学校生活を補佐してくれる現地の学生との交流も非常に素晴らしいものでした。素敵な先生とメンターの下で大学生活が送れたことは、今でもかけがえのない財産です。

この短い文章の中では伝えきれないすばらしい事が留学の先には待っています。一度自分で海外に行き自分の目で確かめてみてください。(H.K.)

-----

今回エジンバラ大学でのサマースクールに参加して大変有意義な時間を過ごすことができたと感じています。これまで海外に一人で旅行したことがない私にとって、ヨーロッパの都市に一人で向かい、一か月間を過ごすという体験は極めて貴重なもので、英語しか通じない環境の中で道を聞いたり、レストランで話をしたり、大変だと感じながらも現地の方々との交流を楽しむことができました。エジンバラ大学に用意していただいた英語学習のプログラムも日本の授業ではなかなか手が出しづらいコミュニケーション重視のものや、両国の経済に関係するプレゼンテーション作成など新鮮な題材ばかりで、今まで勉強してきた英語をどのようにアウトプットするかという能力が自

ずと鍛えられたと思います。また、授業のみならず、スコットランドの文化を実際に体験できたソーシャルプログラムではパブに入ってみたり、ケリーという伝統的な踊りを踊ってみたりと、大学側が様々なイベントを企画していただいたおかげでスコットランドの文化を肌で感じることができました。

来年もまた多くの横国生にこのプログラムに参加してほしいと思います。私自身とても楽しい経験をさせていただきましたし、英語に対する自信とさらなる向上心が湧いています。何よりも世界遺産の都市で一か月も勉強することができた経験は私の中で何事にも替え難い財産です。関係者の皆様ありがとうございました。そして、学生みなさんには是非来年参加することをお勧めしたいと思います。(R.M.)

-----

このサマースクールのプログラムは芸術と英語にたっぷり浸かれた1ヶ月でした。

平日は朝早く学校へ行き、午後は街の散策やお祭りに参加し、週末の遠出の計画をたてたりしました。高校卒業してから一番規則正しい生活をしたような気がします。

ホームステイ先では、職業も出身地も年齢もバラバラのホームメイトが入れ替わりで入ってくるので、ディナーとその後のティータイムはいつも話題が尽きることなく2時間以上も続くことがほぼ毎日でした。マザーのご飯は予想以上においしかったが、外食もイギリス料理のイメージと全く違っておいしかったです。ランチやバーのお店探しも楽しみの一つでした。

また、普段ほとんど接点がない YNU の学生と交流できたことや、ホームメイトのドイツの方とナチスや戦争についてまじめに話したり、サウジアラビアの王族や富豪の話をしたりしたことはとても貴重な経験でした。ディナーのとき全員女性のときはマザーと一緒に恋バナで盛り上がったこともありました。そして、どの国でも日本のアニメや漫画が大人気でした。

私は英語があまり得意ではなかったが、会話の時はわからなくても質問するとみんな丁寧に説明してくれるし、つたない英語で言いたいことを伝えようとすると、一緒に懸命理解しようとしてくれます。なんのためらいもなく自然と話すことができ、英語の便利さと可能性を感じました。今まで大学で資格やテストのために英語を勉強するときは、なかなかモチベーションが上がらないこと多かったが、今回の体験を通じて、もっとうまくなりたいと強く思ったので、無理なく英語の勉強を続けられるようになりました。

(Z.Z.)

-----

今回のエディンバラサマースクールを参加して本当に多くのことを経験することができました。

まず、サマースクールでは経済の授業を英語で受けるという初めての経験をしました。それまでの英語学習では日常会話でよく用いられるフレーズ、語彙を中心に学んできていたため、自分が使えるアカデミックな語彙が不足しており、授業中の発表では思うように思っていたことを伝えることができませんでした。授業を経て、帰国後の課題を見つけることができました。

また、今回の研修でスコットランドに友人を作ることができました。日本にいる時には知らない人にわざわざ話しかけてみようと思うことはあまりないのですが、サマースクールの課外活動でパブを訪れた際に思いきって話しかけてみたのが大きな一歩となりました。今でも友人達と時々連絡を取り合い、互いに良い刺激となっています。

そして、生活面では、自分の欠点が露見してしまった場面が多々ありました。1つめとして、無計画さが挙げられます。英作文を書く際、書き始める前に構想を十分に練らず書き始め、教師から数度注意を受けました。放課後、休日に外出する際にも時間の認識の甘さから思うようにいかないことがありました。学生のうちに改善しなければならない課題が明確になった良い機会だったと思っています。

この1ヶ月間のエディンバラサマースクールを通して、学習面、人間面の双方の面において、大きな成長をすることができたと実感しています。(Y.K.)

-----

私は、今回のサマースクールで色々なことを経験しました。まずはじめに、海外に一度も行ったことのなかった私にとってイギリスの街並みや雰囲気はとても新鮮で、なおかつ英語でしかコミュニケーションがとれないという状況で、その環境に慣れるのには少し時間がかかりました。普段何気なく日本語で交わすような日常会話でも、英語だと何て言えばナチュラルに意味合いが通じるのかなど、悩むところはたくさんありました。今回のプログラムのメインである学校の授業に関しては、発音の矯正からプレゼンまで様々なことを学べましたが、特に印象的だったのが、プレゼンのためのリサーチで一般人にアンケートをとったことでした。アンケートの内容は日常会話と違っ

でジェスチャーなど交えて何となく伝わるようなものではないので、発音の仕方など注意するところがたくさんあって、さらに相手の答えを聞き取るのにも一苦勞でした。ホームステイ先では、ホストマザーがすごく優しくったことをよく覚えています。ホストマザーの作るご飯はどれも美味しかったし、たまに家に泊まりに来る孫たちと遊ぶのも楽しかったです。ホストマザーと話していて気付いたのが、時間や曜日など予定を伝える時には特に注意しなければならないということでした。発音のせいで、自分が伝えたいことと相手に伝わったことが違くと、後々とてもめんどくさいので、気をつけなければなりません。さらに、サマースクール中には様々なイベントがありました。ハイランドツアーはとても雄大な景色を楽しめるし、他にもスコットランドの伝統的なダンス「ケイリー」を体験できるイベントもとても楽しかったです。最後に、このプログラム中ずっと感じていたのが、物価が高いということでした。物価以外はとても過ごしやすいところだったので、いつかまた行きたいです。(K.T.)

-----

今回参加したエディンバラサマースクールでは自らの英語能力の向上と共に異文化交流としても大きな成果をあげることができたと感じた。

まず英語能力に関してだが、私が行っているアルバイト(駅員)では常日頃から英語を使って外国からのお客様とコミュニケーションをとらなければならない、これまでは定型文だけ暗記してご案内をしていた。しかし、それだけでは忘れ物の問合せ等の突発的な事象に対処することが難しく、外国人のお客様にご不便をおかけすることが多々あった。今回のサマースクールでは会話の授業が多く取り入れられており、単語によるニュアンスの違い等有用な知識を得て現在のアルバイトに活かすことができている。現在、私の英語は比較的駅に関するものに特化しているが、このまま英語で会話し続けていれば他にも応用がきくだろうという手ごたえを感じている。

また、異文化交流という点では、思っていたよりも私の考え方やヨーロッパの人々の考え方はそれほど変わらないのではないかと気づいた。今現在グローバル化が進んでいて、海外の情報が多く入ってきているということもあり、価値観の相違はあるがそれほど大きなものではないと感じた。ただ、スコットランド人のスコットランド人としてのアイデンティティの強さや、スペインのシエスタ等の生活様式、フランス人のフランスに対する誇り(フランス人が挨拶を英語ですることはほぼなかった)など日本にただけでは感じるできない文化を経験できたのはとても良かった。ただ、ホストファミリーと自衛隊の成り立ちや論争についてなど、日本について話すとき、わかりやすく伝えることができず思っていたよりも日本についての知識が足りないと感じた。今後海外で活動するときに英語の向上はもちろん自国に対しての知識も高めていかなければならないと痛感した。(M.N.)

-----

私がこのプログラムに参加しようと決心したのは、時間の取れる大学生の内に海外という特殊な環境で勉学に励みたいからでした。当初は3年生という事もあって、これに参加するという事は、必然的に夏季のインターンシップには参加できず、就活のスタートが出遅れる事になるという点を懸念していました。しかし、海外での経験は必ず就活のみならず今後の人生において、様々な価値観に触れ、視野を広げる経験になると思い、参加を決意しました。実際に海外での講義は、日本のそれとはまた異なる形式・視点で行われ、違った角度で物事を考えるきっかけになりました。また、語学に関しても、日本の講義ではインプットを主に教わっていたため、知っている構文が即座に出て来ず、自らの英語力の無さを痛感しました。このプログラムでは、英語でアウトプットする機会しかないので、ネイティブにも通じるスピーキング力を高めたいと思う人は3年生であっても是非参加した方が良いでしょう。発音の矯正から丁寧にしてくれます。また、このプログラムには勉学以外のオプションも豊富で、スコットランドの伝統や文化に直に触れる事の出来る物や、絶景を拝めるバスツアーもあります。あくまでも勉強が優先ですが、こういった普段の日本での生活では体感できないアトラクションを体験できる事も、このプログラムの利点であると思います。私自身、このプログラムへの参加を経て前と後では、今後の学生生活に対する考え方が変わりました。以前は、なんとなく履修をして、なんとなく卒業していくというビジョンを描いていましたが、今では、今までの講義内容を復習し知識や語学力を身に付けて、再度海外で挑戦したいという思いが生まれました。意識の高い人はもちろん、何となく毎日を過ごしており、何か刺激が欲しい人にも、是非このプログラムに参加して、新しい自分を見出して欲しいと思います。(T.T.)

-----

今回のエディンバラ留学は私にとって初めての留学でもあり海外渡航でもあった。初めての海外は本当に文字通り右も左もわからず、初日は空港から市街地へ向かうバスに乗るのも苦労するほどであった。特に根拠もなくある程度なら英語も喋れるだろうと考えていたのだが実際現地で英語だけの状況で話そうと思うととともに意思疎通ができない。特に初日にある実力を計るテストでは散々な結果で、大きく自信を失ったまま授業に臨むこととなった。

自信を失っていたため最初の一週間は授業中の発言もあまり多くなく、授業についていくのが精一杯というのが正直なところだった。しかし二週目に入り徐々に聞き取ることに集中しないようになり、発言も増えた。その後、最終週までは、徐々に喋ることができるようになっていく実感があり、たった一ヶ月でもこれほど英語に慣れられるのだという喜びが大きかった。また、このプログラムの後ヨーロッパを一人旅したのだがこのプログラムに参加していたおかげで何度も遭遇したトラブルに上手に対処出来た。

一週目の挫折はあったがホームステイ先はそんな私に寛大だった。ホームステイ先ではドイツ人の双子と同じプログラムに参加する日本人と私の4人の留学生が居た。ドイツ人の双子は英語のレベルが非常に高く、とても早いスピードでホストファミリーと会話をしており聞き取れないことが多かったがそこは丁寧に話の内容を教えてもらえ、また私達と話すときは私達のレベルに合わせて聞き取りやすい英語で話してくれ、非常に心強かったのを覚えている。

一ヶ月間海外ならではのトラブルが非常に多くあったが、それを乗り越えることで英語という面でも人間的にも大きく成長出来たと感じているため参加して非常に良かったと考えている。(T.O.)